



健康な体
誠実な心
豊かな知性



しのめ
尾張旭市立東中学校
学校だより
令和4年度 第2号

立夏も過ぎ、熱中症が心配な季節に。しっかり睡眠をとって体調万全に。

学校で身につける力

校長 山下 浩司



私が好きな TV 番組に、空港ピアノ(駅ピアノ)という番組があります。BS の NHK でよく再放送もしています。海外(国内の場合もありますが)の空港や駅にあるストリートピアノに定点カメラをつけ、演奏と、その後に演奏者の独白などが入るという内容です。子どもから老人まで、様々な人種の方が色々なジャンルの曲を演奏(時に歌いながら)していて、見始めるとあつという間に時間が過ぎていきます。演奏も大変惹きつけられるのですが、何より出演される方の素性や話がいつも興味深く、その背景にも思いを馳せることがあります。オーストラリアのブリスベンの回で、コンゴ民主共和国出身の空港セキュリティー職員のエピソードを紹介します。ピアノを始めて3か月の彼は、教会で歌っている讃美歌をつたない指づかいで弾いていました。8年前に内戦から逃れるために家族とオーストラリアに難民として渡ってきたこと、同じくコンゴから避難してきた難民の女性と結婚をしたこと、難民として戦火を逃れてきたオーストラリアの地で仕事に就くことができたこと。たった2分にも満たない時間に、その激動の生い立ちが語られていました。彼にとってピアノの音は、平和の象徴なのかもしれないなと私は感じました。

現在の日本は、コンゴのように内戦があるわけではなく、平和で比較的安定した状況にあります。課題がないわけではありません。この TV を見た同じ頃(4月16日)に、こんな記事が新聞に載っていました。「日本の総人口64万人減、減少は11年連続で出生児数は83万1000人と前年より4万人減った。死亡者数は6万8000人増の144万人だった」。少子高齢化による人口の減少、それによって作り手の不足や国内消費の縮小という問題が起ってきています(日本でも、オーストラリアの移民の受け入れまでではありませんが、外国人労働者の受け入れが進んでおり、去年 10 月の時点で 172 万人余りと、コロナ禍でありながらこれまでで最多になったそうです)。

このことに加え、インターネット等情報通信技術の進展、交通手段が発達、市場の国際的な開放等により、人、物、情報移動が活性化して、世界の様々な分野で「国境」がなくなり、他国や国際社会の動向と協調が求められるグローバル化が進んでいます。当然日本もその流れに対応する必要があります。

これからの日本が直面しているこの困難な状況を打開するには教育の力が必要です。昨年から変わった中学校の学習指導要領は、これらの変化を見据えて考えられたカリキュラムといえます。

このカリキュラムは学校で育成する資質・能力を「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」、「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」のかん養)」の三つに整理しています。授業内容も、友達と意見交換したり、議論したりする活動が増え、新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより深めたりできるようにしています。その中でみなさんには見通しを持ってあきらめず、粘り強く目標に向かうたくましさ、課題に積極的に向かっていく主体的・積極的な姿勢で取り組むことが求められます。

少子高齢化、グローバル化等、社会が急激に変化し予測が困難となる時代にしなやかに対応できる、難しい難題に挑み、自ら解を見い出し未来を切り拓く、そんな東中生となり、活躍することを期待しています。ぜひ級友と学びあうことで、その力を身につけていってください。

教育とは、世界を変えるために使うことができる、最も強力な武器である。(ネルソンマンデラ)